

いぐさ新品種「ひのみどり」の畳表退色特性

高森幸光・田中伸昭 (熊本県農業研究センターい業研究所)

Yukimitsu TAKAMORI and Nobuaki TANAKA
Fading Characteristic of Tatami Facing of Mat Rush Cultiver "Hinomidori"

いぐさ新品種「ひのみどり」は、高級畳表用の品種として1998年に熊本県の奨励品種に採用された。熊本県ではこの品種を使用した畳表を高級ブランド品として売り出すため、厳しい規格を設け、これを満たした製品には「ひのさらさ」というブランド名をつけている。

高級畳表では出荷時の品質はもとより敷込み後の退色も重要な要因となることから、畳表の退色特性について調査した。

1. 試験方法

県内5ヶ所の農家で普通刈栽培したいぐさ新品種「ひのみどり」と熊本県の主力品種「岡山3号」を供試した。

製織した畳表は、①120cm以上の茎で麻1種、②105～120cmの茎で麻3種である。

畳表の退色については、畳表を中央部で半裁し染土を乾いたタオルで拭き取った後、ビニルハウス内に1ヶ月間放置(季節1～2月)し、10日毎の色調を測定した。

調査項目は、畳表の色調を色彩色差計ミノルタCR-331Cを用い、L*a*b*表色計で畳表中央部と端部を測色した。畳表退色後の黒すじ茎の発生率は、畳表の端から4配目と5配目を遠視で調査した。

2. 結果および考察

1) 退色前の畳表色調 (第1図 第2図)

「ひのみどり」は「岡山3号」に比べて、緑味(色相a*)がやや強いので明度(L*)は同等かやや低く、部分変色茎が少ないため黄味(色相b*)がやや弱い傾向がみられた。

畳表の表面に付着している染土を乾いたタオルで拭き取った後の色調は、いぐさそのものの色調が強くなるため、緑味と黄味が強くなり、明度は低くなった。

2) 畳表の退色色調 (第1図 第2図)

畳表の退色は、相対的に最初の10日間が最も変化が大きく、緑味が大きく醒めるため明度が高くなり、黄味も増す。以後は、緑味の変化は小さく黄味が強くなるため、明度もゆるやかに高くなる。

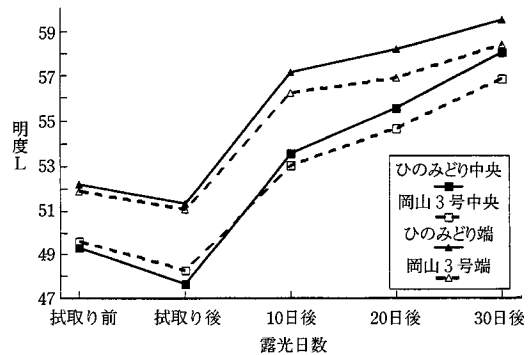
「ひのみどり」は「岡山3号」に比べて、10日後での明度はほぼ同じであるが、その後は明るく推移し、退色前との色差も大きい。しかし、緑味は「岡山3号」との差を保ったまま緑が残った状態で退色する。黄味は10日以後は「岡山3号」とほぼ同じに推移した。

3) 畳表退色後の黒すじ茎の発生率 (第1表)

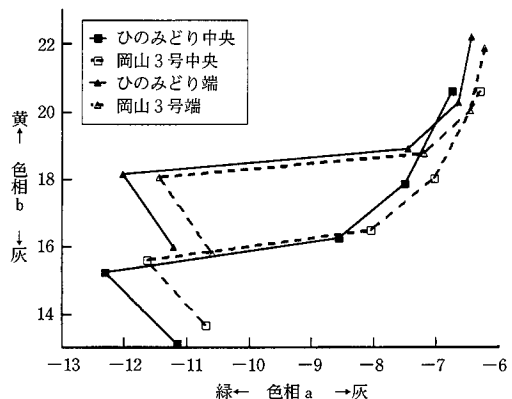
黒すじ茎は、畳表の退色後、茎によって先端部から暗褐色に変色する茎のことをいい、これが発生すると畳表の品質としては良くないとされている。

「ひのみどり」は「岡山3号」に比べて、選別長さにかかわらず発生率が低かった。t検定では、105～120cmの茎では3カ年とも5%水準で有意差がみられ、120cm以上の茎でも1998年産で5%水準で有意差がみられた。

以上のことから、「ひのみどり」は「岡山3号」に比べて、緑味の退色がやや遅く明るく退色し、退色後の黒すじ茎の発生も少なく、畳表退色特性は優れていると判断された。



第1図 畳表の明度の推移 (1997年産 105～120cm)



第2図 畳表の a*・b* の推移 (1997年産 105～120cm)

第1表 畳表退色後の黒すじ茎の発生率 (%)

選別長さ	品種名	1996年産	1997年産	1998年産
120cm以上	ひのみどり	5.6(77)	2.7(56)	1.8*(47)
	岡山3号	7.3	4.9	3.8
105～120cm	ひのみどり	5.2*(59)	5.7**(51)	3.8*(48)
	岡山3号	8.8	11.2	8.0

注) a) *, **はt検定でそれぞれ5%, 1%水準で有意差あり
b) ()内は岡山3号を100とした比率%